

## 東水大に Liaison Center 誕生

かねてより概算要求していた地域共同研究センターの開設が認められて本年4月から動き出しました。本年度は組織の整備のみ認められ、建物の建設や運営費の配分は来年度からになります。急激に動いている時代の速さに負けないように精一杯活動していきます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

### ご挨拶 東京水産大学学長 隆島史夫

地域共同研究センターは、産学協同研究のためのリエゾンオフィスとして位置づけられアンテュレ・ブルヌール（起業）を支援する機関です。水産学は基本的に実学を目指すものであり、漁業技術や食品加工・利用技術、水産増養殖技術などの分野に貢献することが求められていると思います。本学に設置されたこのセンターが名実共にそのような役割を果たすことを約束し、センター長とともども内容の整備に一層の努力を払う所存でありますので、斯界各位のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 地域共同研究センター開所式 (2000.4.20)

#### センター長挨拶 渡辺尚彦

この度、地域共同研究センター長を拝命しました渡辺です。宜しくお願いします。先ずこのセンターを作るに当たって御尽力御協力いただいた多くの方々に御礼申し上げます。

地域共同研究センターという聞き慣れないこのセンターは何をするところでありましょうか？共同研究センターは工学部を持っている各地の国立大学に出来ております。地域共同研究センターという名称は、13年前に熊本大と富山大にセンターが全国に先駆けて出来たときからの名称で、地域の産業振興を研究開発の面で大学がお手伝いするというのがセンターの仕事であるということをお願いしているとおもわれます。この名称が水産大の場合もついているの

ですが、水産大の場合は地域を関東地域と読んでも、また空間ではなく、水産とか食品とかの産業領域と読み替えても良いとお考えください。

しかしながら、それから13年たった今日では、社会が大学に寄せる期待は変わってきています。先端分野では大学がお手伝いするのではなく大学が中心になって新しい産業を興すことが期待されております。何故かと言いますと、知識・knowledgeが金を生む時代だからです。従来は研究・researchは金を使って知識・knowledgeを生むというものでした。いまは、主に、マイクロプロセッサやインターネットの発展に支えられて知識・knowledgeが金を生む時代であり、大学には知識があるのだから大学が新しい産業の発信源になりうるのだと期待されているのです。このような期待を込めて産学連携の推進が現在の国の施策となりました。

さて、水産大ではどうしたらよいのでしょうか？水産大の社会的な役割は、ただ単に学問のための大学ではなく社会のニーズに応える大学であることは間違いないところでしょう。ですから社会との連携を推進するセンターが必要であることは間違いありません。しかし、多くの工学部主体の地域共同研究センターと活動の内容が同じである必要はないし、むしろすぐ水産大らしいものを打ち出し、特色を強調していくことがとても大事だと思っています。試行錯誤でよいから、これは面白そうだと思うことに何でも挑戦してみようというのが現在の方針です。こう言うことをやってみたいとお考えが何かあれば何でも是非お聞かせください。出来るだけ実現を目指してご協力させていただきます。

センターは今後運営委員会を発足させ、また順次専任教員・客員教授・客員助教授を迎え、更にワーキンググループを結成して、各種プロジェクトをコーディネートしていきたいと考えております。いろいろご協力頂くことになっていきますが、よろしくご支援ください。

## LCの行事

- 5月15日～18日 国際食品工業展アカデミックプラザに食品生産学科6研究室'参加  
(東京ビッグサイト)
- 5月16日 産学提携国際フォーラム (東京水産大・大学会館)
- 7月12日～14日 ジャパンシーフードショーにおいて食品技術相談会開催  
(東京ビッグサイト)
- 7月12日 ジャパンシーフードショーにおいてシーフードセミナー開催  
(東京ビッグサイト)

## LC TUF の概念図

